

少子高齢化の進む人口約 4300 人の村で、 地域住民を中心とした「地域医療システム」の構築を目指して

山形県立保健医療大学 3年 田中 こうや

I、はじめに

私の故郷は人口約 4300 人しかいない小さな村である。そんな小さな村では人口流出や少子高齢化の進行が著しい。これらをなんとか食い止めようと村では、メディアを通しての宣伝や、定住促進住宅の設置、子育て支援を行っているが、これらの問題はいまだ深刻である。

休暇で帰省し、久しぶりに家族や近所の人たちの再会した時のことである。しばらく見ないうちに、「以前より腰が曲がっている」、「体を悪くし入院している」といった健康状態の変化や、「家族が入院しているから病院に通っている」、「ばんちゃん少しボケてきたから自宅介護をしている」などの環境的变化も少しずつみられるようになった。

村に 1 か所だけ診療所はあるが、家々が離れた地域からのアクセスは、車なしでは容易ではない。かといって訪問看護・リハといった事業を村の高齢者を対象に行うには地域の特徴的に、マンパワーと時間を考えると効率が悪く実用性に欠ける。そこで家々が離れて暮らす村ならではの「地域住民中心での地域医療システム」があれば高齢者の病気の早期発見や健康増進、高齢者の人口が多くを占める村の活性化につながるのではないかと考えた。

II、地域住民中心での地域医療システムとは

私の提言する「地域住民中心での地域医療システム」とは地域住民同士でのセルフチェックを行い、病気の早期発見・予防活動に努めようとするものである。地域住民中心でのシステムにした理由として、近くに病院がない・交通手段がない・医療事業の普及の遅れなどを解消し、常に共に暮らす家族では気づかない身体的・精神的変化などを感じることができるのではないかと考えた。私たちの村には、地域ごとにグループを編成し※1「回覧板」をグループの家間で共有するシステムがある。そのシステムにセルフチェックの項目を加えるというものである。グループは少人数であるため地域住民同士で行うこと、次の家に置きに行くついでに行えることを考えても、負担は少ないと考える。

※1 回覧板

近隣住民で少人数の班を構成する。村の広報やイベント情報などを挟んだバインダーを班の中で回して情報共有をするというもの。今回の提言では、読み終わった回覧板を次の家に渡すときに、気になったこと（精神状態や健康状態など）を記入して回すことで、近隣住民の健康状態をお互いに把握して、気かけあうものである。

Ⅲ、地域住民中心での医療システムの流れ

①回覧板にチェックシートを配布

↓

②回覧板のチェックシートの内容を役場で確認。

↓

③気になること（状態の変化など）があった場合、電話での詳細の確認や受診を勧めたりする。受診が都合により困難な場合、訪問での健康診断を行う。

↓

④早期発見・健康指導や予防を通して、高齢者の健康促進をねらう

Ⅳ、事業によって得られる成果

この事業によって得られる成果として以下の項目を挙げる。

①村に住む高齢者の健康状態を維持・向上につなげるあるいは、病気の早期発見や予防効果が期待できる。

②健康状態の低下を防ぐことで活動量の維持・向上につながり、多くの高齢者が社会参加の機会を得ることができる。

③社会参加（友人とのかかわり、地域事業への参加 etc…）を通して高齢者の生きがいを得ることができ QOL の向上を目指していく。

④家々が離れており、時間・マンパワーの関係で行き届かない地域があったが、医療機関が介入する前に、地域住民・村の行政で医療処置が必要な状態がどうかを判断できるため、最小限の人員での対処が可能となる。

⑤村のシステムをモデルに、他の町村でも、高齢者一人一人が自立した生活をおくり、大部分を村民で構成する「地域医療システム」の普及につなげていくことで、医療従事者の不足の解消につなげる。

Ⅴ、事業の課題

①システムの理解と普及

機関が独自で行うものではなく、村全体（4300 人）で取り組んでいくため、地域住民の理解と受け入れが必要であり、そのためには時間を要する。

②地域住民の健康状態の把握に対するマンパワー

回覧板のチェックシートに気になる記入があったとき、医療処置や受診が必要かどうかを判断する役割を村役場と設定している。より早く判断し、早期発見につなげるためには、より多くの人員を割く必要があると考える。

③他市町村との連携

村独自で開始するシステムではあるが、村内の医療施設は限られており他市町村の協力・連携が必要不可欠である。

VI、謝辞

最後まで私の提言を読んでいただきありがとうございました。まだまだ学生の身であり拙い文と意見ではございましたが、少しでも力にできればと思い考えてみました。今後も地域医療に貢献できるように日々、精進していきたいと思えます。